

無理してでも一緒に出掛ける、心のバリアをはずすことを心がけて。

—— 武知 由佳子 医師

取材・レポート：『めづるくらし』研究会 編集部

車イスで海外旅行と聞くとハードルが高くて、ムリ！ムリ！と思われる方も多いかもしれませんが、そんなことはありません。

母（武知明子さん）が膝を痛めて車イスになってから数年たちますが、私が休暇をとれる夏休みや年末年始を利用して海外に出かけています。

ユニバーサル企画など、旅行会社のパックに参加する方法もありますが、私たちは徹底的に下調べして、個人で計画を立てます。下調べをするのは母の役目。私は毎日仕事に追われていますから、母にドーンと研究資料を渡して、その土地の歴史まで調べてもらいます。

母も私も出かけるのが大好き、未知のことに挑戦するのが大好き。海外でもあくまで、公共交通機関を使って移動します。

旅行はいつも家族同様のスタッフと3人一組で行くのですが、私は母の車イスを押し、スタッフが大きなトランクを二つ持つて。一つには3人分の衣類などを詰め、もう一つは母が買うお土産用にするんです（笑）。

母は旅先でもすごく頼りになる存在です。チケットやお金や大切なものは『ママ、お願い！』と預かってもらいます。私がハイウェイを運転するときには助手席にいて、しっかりナビ係もしてくれます。

それでも、母は旅行から戻ってくると「迷惑かけたから、これで最後にしましょう。」なんて言います。でも、私たちは『ママ、また行こうよ！行こうよ！』つて、スタッフも母との旅を楽しみにしてくれます。

私は卒業旅行に父と一緒にハンガリーに行きま

したが、母はその頃はネコの世話もあって実家の佐久で留守番でした。医者になってからも父とはよく旅行しましたよ。父との最後の旅行は、父が脳溢血で倒れて両足にマヒが残り、歩くのは非常に困難な状況にあった時でした。

ちょうど神戸で「呼吸器学会」があつて、それに便乗して行こうということに。父の郷里は兵庫県ですから、親戚にも会わせられるし、と母の強い希望でした。母も膝が痛い状態でしたから、車イス2台で行きました。あれが今までで一番大変な旅行でしたが、母は大満足でした。無理してでも行つて、本当によかつたと思っています。

かつて勤務していた病院で「迷惑をかけたくないから。何も希望しない。」と患者さんがテレビのチャンネルを変えることにすら遠慮しているのを知り驚いたことがあります。

その時、病氣、障害、高齢……、どんな状況にあつても、心にバリアをはらないで、自分のしたいことを自由に選び、希望してほしいと思いました。

車イスの旅行にも心のバリアフリーが必要ですね。



堀口 順一朗：イラストレーター

庭園から日本家屋まで幅広い建築表現を有し、ユーキャンなど、多くのグラフィック・マップの製作を手掛ける。また『太平記』（学習研究社）などの歴史物や人物像から、釣り本の解説イラストなどと多岐にわたって活躍。



『いきいきクリニック』のスタッフの皆さん。一緒に旅をしてくれるナースの方々は「人のためになる」ことに労をいいます。「母を楽しませるためなら」とありがたいことです。」



ベネチアでは空港から市街地行きの海上バスに乗る時「渡し板が細くて車イスの車輛がはみ出しヒヤッしました。」市内を走る海上バス（パボレット）はバリアフリー。電車で移動したフィレンツェのヴェッキオ橋にて。

武知 由佳子：いきいきクリニック・院長

内科・呼吸器科、医師。2007年、開院。障がい・病気があっても、住み慣れた家・地域で暮らし続けたい、その思いを尊重した医療看護を提供。からだのケアだけでなく、たましい、こころのケアも含めた全人的ケアを行っている。また、残されるご家族の心のサポートのお手伝いも。訪問リハビリテーションに力を入れ、特に呼吸ケアスペシャリスト、緩和ケアスペシャリストによる訪問診療、訪問看護を行っている。

▼いきいきクリニック
〒212-0016 神奈川県川崎市幸区南幸町2-34-2
TEL: 044-522-5556 FAX: 044-522-2232
E-mail: ikiiki.clinic@gmail.com
HP: <http://ikiiki.missionjapan.org/main1.html>



訪問診療中の由美子先生を大歓迎する患者さん宅のネコたち。

自分らしい人生を生き抜いて！ 分身ロボットでヨーロッパ旅行も可能に。

—— 武知 由佳子 医師

取材・レポート：『めづるくらし』研究会 編集部

桑原君「今、エストニアに行ってました。」
私「タリンにも行った？」

訪問診療の一コマです。桑原君の分身ロボットが、今ヨーロッパを旅行中。コンピューターを前にしたバーチャルトリップです。すでに10年以上主治医としてかわる38歳の桑原章太君をご紹介します。

彼は、今まで20歳を迎えられないとも言われたデュシェンヌ型筋ジストロフィーですが、マスク式人工呼吸器、排痰補助装置などといった呼吸ケアと、心保護戦略（ACE阻害薬、βブロッカー）により、38歳の今も、数年体調を崩すことなく、とても元気に活躍しています。小中学校に障害者理解の体験授業を担当したり、障害者の余暇活動を支えるコスモス青年学級の副理事長でコンサートや旅行を企画するなど、精力的に活動しています。

また、神経難病や重度障害で外出困難な人々が遠隔操作で実際に分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を動かし、サービスタッフとしてカフェを運営するプロジェクトに、パイロット2期生として参加し、時給（東京都の最低時給1013円以上）を頂きながら働いています。今は期間限定の実験的オープンですが、2020年には常設店をオープン予定とのこと。

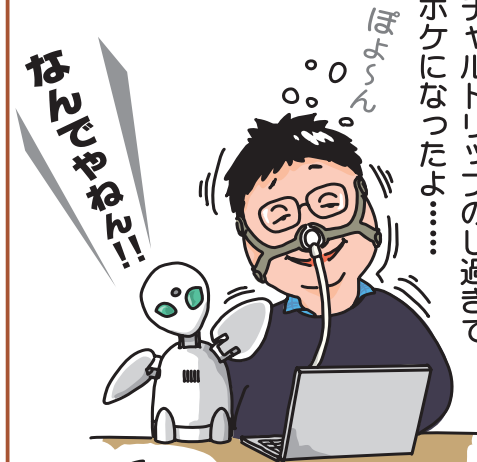
「動けないが働きたい」と思う人々がいることを伝え、人々の社会参加を妨げている課題をテクノロジーによって克服していき、社会そのものの可能性も拡張していこうというものです（by 株式会社オリイ研究所）。

桑原君は、「僕は病いゆえ、誰かの手助けがないと生活ができない不自由があります。しかし社会の役に立ちたいとずっと思ってきました。今回神経・筋疾患の方々の励みになればと、パイロットに応募しました。今までにない充実感を味わっています。」

命にかかわる呼吸や心臓をしつかりケアし、支えているからこそ、患者様は日常生活を営むことができ、さらに自己実現を行うことができるのだと思います。これは、トップアスリートを支えるコーチ陣のようなイメージです。例えばアーティスティックスイミングの選手たちが、水上水中で素晴らしい演技ができるように、井村ヘッドコーチ、ほかにコーチが二人、二人のスポーツトレーナー、管理栄養士、水着作成者、作曲家などがチームとして伴走しています。だからこそ彼女たちは最高の演技ができるのです。

私の役割は、神経難病の患者様が呼吸や循環、命にかかわることには何も思わず、安心して自分らしい人生を生き抜くことができ、かつ自己実現できるように、社会でも活躍していけるように、一流のチームを編成し、伴走していくことだと思っています。

バーチャルトリップのつ過れば、
時差ボケになったよ……



順一朗

堀口 順一朗：イラストレーター

庭園から日本家屋まで幅広い建築表現を有し、ユーキャンなど、多くのグラフィック・マップの製作を手掛ける。また『太平記』（学習研究社）などの歴史物や人物像から、釣り本の解説イラストなどと多岐にわたって活躍。



〈ちびちゃん〉野良からお姫様に。寒くて風の強かった訪問診療日、野良のままだったら、冷たい倉庫の端に寝ていただけるに猫ベッドを2個も重ねてもらい気持ちよさそうでした。



ペットたちが歓迎してくれる
訪問診療は本当に楽しいですよ。
（ニャンくん）御年22歳。人間で言えば104歳！ まだ大きな声で鳴いて出迎えてくれます。団地の猫集会にも参加。ちゃぶ台にもひよいと乗る、すごい！



就労支援の新しいスタイルに挑戦する桑原君。新聞やテレビでも話題になりました。東京オリパラの開催年！分身ロボットの最先端カフェを世界に発信します。

武知 由佳子：いきいきクリニック・院長

内科・呼吸器科、医師。2007年、開院。障がい・病気があっても、住み慣れた家・地域で暮らし続けたい、その思いを尊重した医療看護を提供。からだのケアだけでなく、たましい、こころのケアも含めた全人的ケアを行っている。また、残されるご家族の心のサポートのお手伝いも。訪問リハビリテーションに力を入れ、特に呼吸ケアスペシャリスト、緩和ケアスペシャリストによる訪問診療、ナーシング、訪問リハビリを行っている。

▼いきいきクリニック

〒212-0016 神奈川県川崎市幸区南幸町2-34-2
TEL: 044-522-5556 FAX: 044-522-2232
E-mail: ikiiki_clinic@gmail.com



患者さん宅のセキセイインコと戯れる由佳子先生。

「お楽しみ」をあきらめないで！

コンサートに美術館、買い物だって行けます。

—— 武知 由佳子 医師

取材・レポート：『めづるくらし』研究会 編集部

呼吸苦が出現し入院。医師から告げられたALS（筋萎縮性側索硬化症）という診断は、道子さんをどん底に突き落とした。主治医や担当看護師は、人工呼吸器を着け、手足も思うように動かせなくなった道子さんに、退院したら、もう二度と外には出られないとお話しし、本人もご家族も真つ暗闇の中退院した。

在宅ではどうか？ ALSはAlways Laugh & Smile、いつも笑って笑顔でいられるように。元々、お世話好きの道子さん、フランス語を習い、地域では学童保育員を務め、各種ボランティア活動も率先して行い、そして森山良子さんの追っかけをするという、とても活動的な道子さんを家に閉じ込めておくわけにはいかない。お楽しみ係と称する私は、とにかく呼吸、栄養など生きることに全く心配しないで済むようにまず整え、本来の道子さんらしさを取り戻せるように、“チーム道子”を作り、全力で励みます。

まず最初のお出かけは、ミューザ川崎での森山良子さんのコンサート、東京交響楽団との共演。痰の吸引などの医療的処置や、車イスごと乗れる介護タクシーの手配など、親孝行で女傑の娘さんと準備を行い、道子さんは自分で選んだとっておきの白いスーツ、靴で装い、家を出発した。森山良子さんの生の声を聴けるなんて！ それもフルオーケストラで！ 感動の涙でいつもより鼻水や唾液が増えたが、2カ所につなげた自動吸引システムでクリア！ もう二度と外に出られないと思っていたのに、こんなことができるなんて！

さて、第2弾！ 趣味は道子さん自身であると答

えるご主人とデートした場所、山下公園。そして、第3弾は、道子さんの仲良しの姉妹に、大好きな京都の桜を見せてあげたい！ 実は古稀を迎える記念にと、道子さんは長女さんと企画し、新幹線に乗って、京都のホテルに泊まり、介護タクシーで、元気なときに行った桜の名所を巡った。そして私も翌日京都で合流し、ホテルのレストランでランチをご馳走していただいた。さらに駅のお土産屋さんで、あの人にはこれ、この人にはこれ、と友人たちにしつかりとお土産を買い、道子さんは大満足で無事帰宅した。

さて、第4弾、第5弾、今では路線バス＋横須賀線で鎌倉へ行ったり、横浜で美術館巡り、大好きな百貨店での買い物、ジャズを聴きに大森まで。（今は、新型コロナウイルスのため、外出は中止している）

今度は道子さんが大好きな海外旅行ができるようにと、私は車イスの母と現地のバリアフリー状況を確認しその度に提案している。果たして？ 道子さんは目をキラキラさせて私の提案を聞いている。

（お楽しみ係の呼吸器科医 武知 由佳子）



順一郎

堀口 順一郎：イラストレーター

庭園から日本家屋まで幅広い建築表現を有し、ユーキャンなど、多くのグラフィック・マップの製作を手掛ける。また『太平記』（学習研究社）などの歴史物や人物像から、釣り本の解説イラストまで多岐にわたって活躍。

ペットたちが歓迎してくれる訪問診療は本当に楽しいですよ。



〈ウサギちゃん〉雄なのに心優しく、猫にも雌に間違えられるほど。抱くとどしりと身を委ねて、抱かれます。



〈大ちゃん〉お母さんはスコティッシュフォールドで、お父さんは雑種。訪問時、必ずカルテの上に乗る、みんなの中心にやっています。



第3弾は、古稀の記念に大好きな京都の桜。



（上）第1弾は、追っかけまでした森山良子さんのコンサート。（左）第2弾は、ご主人とデートした山下公園に再び。

武知 由佳子 たけち ゆかこ

内科・呼吸器科、医師。2007年、開院。障がい・病気があっても、住み慣れた家・地域で暮らし続けたい、その思いを尊重した医療看護を提供。からだのケアだけでなく、たましい、こころのケアも含めた全人的ケアを行っている。また、残されるご家族のこころのケアのサポートも。訪問リハビリテーションに力を入れ、特に呼吸ケアスペシャリスト、緩和ケアスペシャリストによる訪問診療、ナーシング、訪問リハビリを行っている。

▼いきいきクリニック
〒212-0016 神奈川県川崎市幸区南幸町2-34-2
Tel: 044-522-5556 Fax: 044-522-2232
E-mail: ikiiki.clinic@gmail.com